

国と国際埠頭施設の管理者との協働による港湾保安対策への取組

現状

- 米国同時多発テロを契機とした改正SOLAS条約等に基づき、保安措置が不十分な港湾施設を利用した外航船は、他国に入港する際に保安面の嚴重なチェックや入港拒否等を受ける。
- このため、国際条約に対応し、国と地方の適切な役割分担を図りつつ、国(港湾局等)が、国際埠頭施設の保安状況の評価や保安規程の承認、立入検査等を行い、それに基づく港湾保安対策を各埠頭施設管理者が実施する。

国が行う港湾保安対策

- **国際性**
(改正SOLAS条約等に基づく国際協調の下で対応)
- **広域性**
(安全で効率的な国際海上輸送ネットワークの構築)
- **統一性**
(全国統一的な整合性の確保)
- **緊急性**
(現場で視認行為を行い、必要に応じ官邸に報告)

の4つの観点から、埠頭保安管理者が行う各種の保安対策に関し、国が

- 報告徴収・立入検査
 - 変更命令
 - 改善勧告、是正命令
 - 保安情報の提供
- 等を実施。

協働

国際埠頭施設の管理者が行う港湾保安対策

制限区域の設定・管理

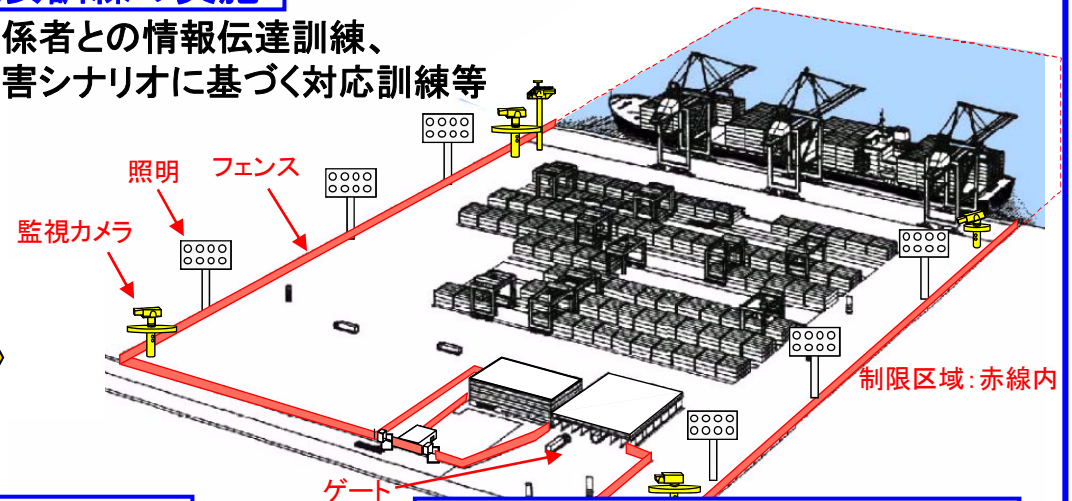
- ・制限区域を設定し、フェンス、ゲート等の設備を設置等

制限区域の監視

- ・監視カメラ・照明の設置、警備員の配置等により国際埠頭施設の内外を監視

保安訓練の実施

- ・関係者との情報伝達訓練、危害シナリオに基づく対応訓練等



貨物の管理

- ・制限区域内での貨物等の点検等

ゲートにおける出入管理の実施

- ・本人・所属確認や立入の必要性の確認
- ・不正な物品等の持ち込みの防止

国際物流の効率化とテロ・保安対策への取組

我が国主要港の現状

我が国主要港では、不審者の立入防止のため、警備員等の目視により本人確認や通行証(紙製)の確認を実施。
⇒ ゲート前の混雑の一因となることに加え、なりすましを防止できていない。

非効率な物流



ゲート前の混雑(東京港)



ゲート前の混雑(神戸港)

脆弱な保安対策

横浜港を舞台にした銃器や爆発物の密輸事件で、速捕、起訴された運び屋の男が、業者を装って埠頭への出入り許可証を入手、密輸を繰り返していたとみられる。(略)



H18.2.10 朝日新聞(夕刊)より抜粋(横浜港)

海外主要港における出入管理の現状

海外主要港では、生体認証機能を有した偽造困難なICカードを活用し、コンテナターミナルの出入管理を適正かつ円滑に実施。

米国(全港湾で実施)

生体認証方式: 指紋認証を試行中



(指紋登録の様子)



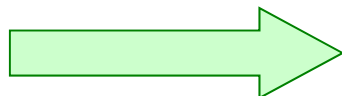
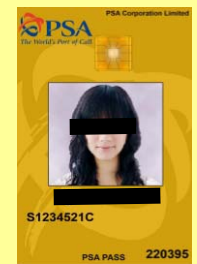
オランダ(ロッテルダム港)

生体認証方式: 掌形認証



シンガポール港

生体認証方式: 指紋認証



我が国主要港においても、出入管理を高度化し、セキュリティ強化と物流効率化の両立を図る必要がある。

PS(Port Security)カードとは？

OPSカードの種類・仕様

・国が発行する、出入管理情報システムの一環として不可欠となる、高度に偽造防止が施された全国共通の身分証明書
(識別番号、顔写真、暗号を格納)

・仕様:偽造防止対策が施され、耐久性のある本人確認が容易な写真付きのIDカード(ICチップを内蔵)
:必要に応じてターミナル独自の情報、貨物情報等が格納できるように、拡張性に配慮

・有効期限は、出入管理情報システムの本格運転開始後5年

OPSビジターカードの種類・仕様

・出入管理情報システムを導入する埠頭施設の管理者に対して貸与する高度に偽造防止が施されたIDカード
(識別番号を格納、ICチップを内蔵)

・有効期限は、出入管理情報システムの本格運転開始後5年

○今後のPSカードの導入スケジュール

H22.5上旬 PSカードの申請書の配布開始

↓ 順次申請書を受付

H22夏頃 PSカードを順次発行

PSカードのデザインイメージ

(表)

(裏)



PSビジターカードのデザインイメージ

(表)

(裏)



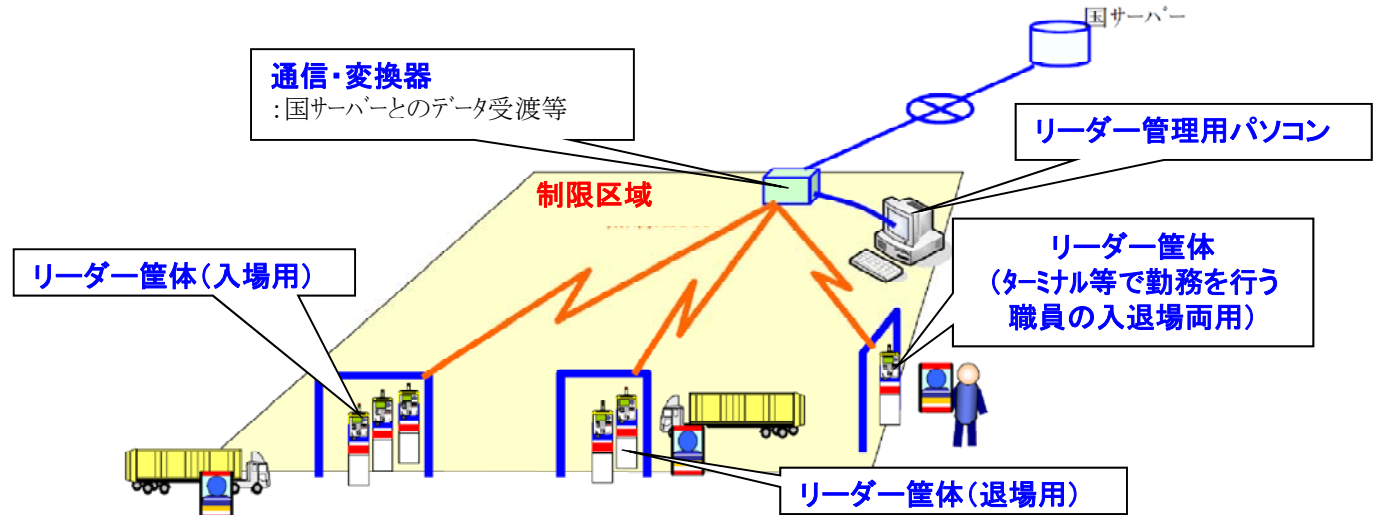
出入管理情報システムの開発・利用イメージ

参考

- ・高度に偽造防止が施された全国共通の身分証明書であるPS (Port Security) カードを国が発行する。
- ・あわせて、主要港のコンテナターミナルにおいて、リーダー筐体、リーダー管理端末、通信・変換器を設置する。
- ・リーダー筐体のカードリーダーにPSカードをかざすこと等により、制限区域への人の出入りを確実に円滑に実施する。

リーダー管理用パソコンの利用イメージ

- ・入場者の顔の確認
(本人のカードであるかの確認)
- ・出入履歴の表示・確認
- ・機器・システム環境の設定
- ・リーダーのインタホン対応 等



リーダー筐体の利用イメージ

- ・カードリーダーにPSカードをかざし、本人を認証(数秒程度)
 - ・本人確認カメラの顔画像を、警備員がリーダー管理用PCで確認
 - ・保安レベル等に応じ指紋認証機器に指をかざし生体認証を実施
(指紋認証に伴う手続時間の増加は数秒程度)
 - ・認証の結果問題がある場合は、赤色点灯及びブザーが発報
- ※リーダー筐体で認証できなかった場合、現場で本人確認を実施



【今後の出入管理情報システムの導入スケジュール(予定)】

- H22冬頃 横浜港及び神戸港において試行運転開始
- H23春頃 名古屋港、北九州港及び博多港へ順次拡大